

あきたの VOL. 519 2022.3.25 うらやましい がちと

「紅梅」

表紙の写真は、秋田市内にて撮影した梅の花です。春の訪れを告げてくれる梅の花は、厳しい寒さを耐え忍び、初春に美しい花を咲かせます。秋田県においても、ようやく長い冬が終わりを見せ、暖かな春の気配を感じられるようになりました。年度末を迎え、何かと慌ただしい時期ですが、この梅の花を見て少しでも安らぎを感じていただければ幸いです。

水土里ネット秋田では、今年度も第22回「あきたの美しく豊かな農村づくり」写真コンクールを開催し、入賞作品が決定しました。入賞作品については、本会報誌内でご確認いただけますので、是非ご覧ください。

撮影者／政策・広報班
竹内 麻里子



イメージキャラクター
みどりちゃん

TOPIC 1 本会第64回通常総会を開催

TOPIC 2 全国水土里ネット表彰式

本会第64回通常総会



▲高員会長挨拶

3月18日(金)、本会第64回通常総会が秋田市文化会館で開催され、会員94名(内、委任状45名)が出席した。

開会にあたり高員会長が、「令和4年度は、土地改良法の改正が予定されているほか、秋田県の新たな農林水産ビジョンがスタートする年となっている。本会は、最新の農業政策に関する情報収集と分析を強化し、情勢の変化に的確に対応しながら、先端技術の習得、技術力の更なる向上に努め、持続的に発展する農業・農村の実現のため、全力を尽くして行く」と挨拶を行った。引き続き功労者表彰が行われ、1団体と個人15名が栄えある表彰を受けた。

その後、来賓の皆様を代表して秋田県知事(代読：中西滋樹農林水産部次長)、坂本修東北農政局長(代読：西野徳康西奥羽土地改良調査管理事務所長)、金田勝年衆議院議員からご祝辞を頂戴した。

議事では、三浦道夫理事長(三種町土地改良区)を議長に選任し、令和2年度事業報告・貸借対照表・一般会計収支決算及び財産目録、令和3年度一般会計収支補正予算(理事会専決処分)、令和4年度事業計画・一般会計収支予算等が審議され、これらの議案はすべて原案通り承認並びに議決された。令和4年度事業計画の重点項目として、(1)持続的に発展する農業に向けた支援、(2)国土強靱化に向けた支援、(3)土地改良区体制強化に向けた支援、(4)豊かな農村環境づくりへの支援、(5)活力に満ちた地域活動への支援が位置づけられた。また、役員への補欠選任がなされ、欠員となっていた雄勝支部の理事に湯沢雄勝土地改良区の瀬川等理事長が新たに選任された。最後に佐藤専務理事による「決議文」が朗読され、満場一致で採択された。

なお、表彰者は次のとおりです。



▲西野西奥羽土地改良調査管理事務所長挨拶



▲受賞者

令和3年度秋田県土地改良功労者表彰

団体表彰

【銀章】 雄和土地改良区

個人表彰

橋場義則(かづの土地改良区理事) 野呂俊一(大館市土地改良区理事) 佐藤重光(北秋田市土地改良区理事) 佐々木文治(三種町土地改良区理事) 清水千加子(三種町浜口土地改良区管理係主任) 佐々木一義(男鹿市五里合土地改良区理事長) 佐々木忠利(由利本荘市土地改良区理事) 黒木重徳(由利本荘市土地改良区鳥海出張所長) 高橋勝則(秋田県仙北平野土地改良区理事) 藤田農夫雄(秋田県仙北平野土地改良区総括監事) 佐藤忠男(秋田県仙北平野土地改良区理事) 高橋稔(秋田県雄物川筋土地改良区理事) 伊藤昭雄(秋田県南旭川水系土地改良区理事) 小松正行(湯沢雄勝土地改良区監事) 宮原正明(湯沢雄勝土地改良区理事)



▲全体の様子



▲総会(議事)

決 議



記

- 農業農村整備事業を、現場の要望に応え、計画的かつ円滑に実施するための予算を安定的に確保すること
- 複合型生産構造と効率的な生産体制を確立するため、農地の大区画化や水田の畑地化・汎用化及び農地中間管理機構による担い手への農地集積・集約化を一層推進すること併せて、スマート農業に対応した基盤整備事業への支援を充実すること
- 農村地域の防災・減災力の強化を図るため、防災重点農業用ため池等の農業水利施設の長寿命化対策及び豪雨・耐震化対策など、機能強化のための支援を充実すること併せて、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」については、2年目以降も1年目と同様に十分な予算を確保すること
- 土地改良区が、農業・農村をめぐる情勢の変化に的確に対応して適正な業務運営を図るため、複式簿記の円滑な導入、統合整備や男女共同参画の推進など、組織運営体制の強化に向けた支援を一層充実すること

令和4年3月18日

秋田県土地改良事業団体連合会 第64回通常総会
(水 土 里 ネット 秋 田)

目 次

CONTENTS

本会第64回通常総会	2	ようこそ土地改良区へ(秋田県田沢疏水土地改良区事務局長(兼)総務課長:佐藤 猛)	10
第63回全国土地改良功労者等表彰		随想(井川町土地改良区主任書記:小林 千子)	11
令和3年度農業農村整備優良地区コンクール表彰 一県内受賞者について	4	連合会日誌	11
湯沢市 関口地区農地中間管理機構関連ほ場整備事業のご紹介	5	ちょっと知っておきたいキーワード	11
第22回「あきたの美しく豊かな農村づくり」写真コンクール	6	水土里レポートによる写真投稿(大館市二井田真中土地改良区庶務担当主事:齋藤 祥太)	12
農地・農業用施設災害復旧事業業務委託標準歩掛の運用について	8	リレー感想文	12
退職される方からひと言	8	編集後記	12
おらほの自慢っこ~来てけれ!鹿角市~(鹿角市産業部長:花海 義人)	9		

第63回全国土地改良功労者等表彰 令和3年度農業農村整備優良地区コンクール表彰 ==== 県内受賞者について ====

全国水土里ネット主催の、第63回全国土地改良功労者等表彰及び令和3年度農業農村整備優良地区コンクール表彰において、県内から、次の皆様が受賞されました。

受賞を心からお慶び申し上げますとともに、今後、益々の御活躍を御祈念申し上げます。

なお、全国水土里ネット第64回通常総会終了後に開催予定となっていた表彰式は、新型コロナウイルス感染症の状況等を踏まえ、中止となりました。

第63回全国土地改良功労者等表彰

○全土連会長表彰

〈団体表彰〉

秋田県能代地区土地改良区

大仙市大曲土地改良区

〈個人表彰〉

役員 瀬川 等 湯沢雄勝土地改良区 理事長

職員 高橋悦子 秋田県南旭川水系土地改良区 主幹兼会計主任

令和3年度農業農村整備優良地区コンクール表彰

〈中山間地域等振興部門〉

農村振興局長賞 五城目杉沢地区 農事組合法人杉沢ファーマーミング

(関係土地改良区：馬場目川水系土地改良区)



▲杉沢地区全景



▲杉沢ファーマーミングの皆さん

～米依存から脱却した複合型農業経営の実現に向けて～ 湯沢市 関口地区農地中間管理機構関連 ほ場整備事業のご紹介



秋田県湯沢市



関口地区とは(湯沢市関口)

湯沢市は複合経営の先進地として、ブランド作物である「三関せり」をはじめ、「さくらんぼ」「小菊」等の作物が栽培され、「ねぎ」の生産を拡大して更なる躍進を図ろうとしています。

その中で、市北部に位置する三関地区は、農地中間管理機構関連ほ場整備事業の県内最初の地区であり、ほ場整備を契機に法人の設立、農地の集積を行い、園芸メガ団地の一角として、令和5年度事業完了予定を目指し、整備が進められています。

事業概要

事業主体	秋田県
事業名	農地中間管理機構関連ほ場整備事業
工期	平成30年～令和5年(予定)
受益面積	26.0ha(田：20.6ha 畑：5.4ha)
関係農家	77人
関係土地改良区	湯沢雄勝土地改良区



整備前



整備後

事業前	
水稻、酒米	13.3ha
飼料用米	0.6ha
せり	2.1ha
ねぎ	0.6ha



R3実績	
水稻、酒米	17.5ha
飼料用米	0ha
せり	3.6ha
ねぎ	3.4ha

インタビュー



関口地区ほ場整備事業
推進委員会
湯沢雄勝土地改良区
高山 陽二さん

●機構関連型ほ場整備事業へ取り組んだきっかけはどんなことですか？

当初、地区では後継者、労働力不足の解消や、全国的に有名な「せり」「小菊」などの地域農業継続のため、従来型のほ場整備を目指していましたが、新型のほ場整備事業が創設され、農地中間管理権の設定などの採択要件を満たしており、また、**農家負担を求めない**ということも**大きな要因**から「農地中間管理機構関連ほ場整備事業」へと切り替えました。

ほ場整備を「機構関連型」へ変えたことで、ほ場整備・中間管理機構・園芸メガ団地の三位一体「あきた型ほ場整備」を推進し、集積率44.7%から100%達成をすることが出来ました。

●工事で苦労した点や進捗状況について心配な事はなかったですか？

ほ場には、思った以上に石れぎが多く、取り除くのに苦労しました。

また、周辺ではさくらんぼの栽培が多く、土の飛散の影響を少なくする為、整地工事の時期を配慮していただきました。

残すは、補完工事を残すのみとなっています。



農事組合法人三関ファーム
NPO 法人あきたアグリネット
代表理事組合長
小松儀兵衛さん

●関口地区内で“農福連携”をされているとお聞きしましたが、どのような取り組みをされていますか？

きっかけは地元中学校の特別支援学級からの依頼で、週1、2回の職場見学や手伝いをさせてほしいと言うものでした。その後、他学校からも要望があり、NPO 法人を立ち上げました。

今は主な作業として、水耕栽培した三つ葉の根を切り、悪い葉を除くなどして梱包出荷する作業を行ってもらっています。近い将来はせりの出荷作業も行ってもらいたいと考えています。

●今後の課題と展開についてお聞かせください！

課題はやはり“**人材不足**”です。スマート農業という言葉もありますが、機械化したとしても動かすのは人であり、とにかく人がいないと出来ない仕事です。

また、私たちは、できるだけ地元の食材を食べてもらおうと湯沢市の学校や施設に食材提供を行っています。一法人がこのように地元貢献に力を入れ頑張っていることを知らない方も沢山いると思うので、これからは地域の方に知ってもらえるよう6次産業化を始め、やれることがあればどんどん挑戦していきたいと思っています。

第22回

「あきたの美しく豊かな農村づくり」写真コンクール

【作品介绍】

2月22日(火) 本会第1会議室にて第22回「あきたの美しく豊かな農村づくり」写真コンクール審査委員会が行われ、応募作品189点の中から入賞作品26点が決定しました。入賞作品については、本会HP「写真コンクール」のサイトでもご紹介しており、右記QRコードからもアクセス出来ますので是非ご覧ください。



＜審査委員会の様子＞



審査委員会では、下記7名の審査委員の方々にお集まりいただき、コンクールの趣旨に合っているか等の審査項目に沿って作品を選定していただきました。その後、委員の皆様で協議を行い、入賞作品を決定していただきました。最後に各委員から講評や感想をいただき、審査委員会は無事終了。どの作品も秋田の農業農村の魅力が存分に表現されており、委員の方々は限られた時間の中で悩みながらも作品を選定されているようでした。

【審査委員のご紹介】

- 審査委員長 中村 章 氏 (全日本写真連盟秋田県本部委員長)
- 審査委員 高貝 久遠 氏 (秋田県土地改良事業団体連合会会長)
- 審査委員 佐藤 暢芳 氏 (秋田県土地改良事業団体連合会専務理事)
- 審査委員 阿部 浩樹 氏 (秋田県農林水産部農山村振興課課長)
- 審査委員 門脇富士美 氏 (秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会代表)
- 審査委員 相場 詩織 氏 (フリーアナウンサー)
- 審査委員 根本由紀子 氏 (かづの土地改良区事務局長)

中村委員長によるご講評と、審査終了後に委員の方々からいただいたご感想を一部ご紹介します。

【中村委員長】

「写真を撮影してコンクールに応募する場合、写真というものは独りよがりではなく、人に伝えなければいけないという使命があります。主催者が応募者に何を求めて、何に作品を使うのか、応募者、審査員が何を目的に応募するのか、何を基準に入選させるかということが重要です。土地連は農村の良さを広め、色々な場面で作品を活用する使命があるため、今後も農村の素晴らしさを伝えていってほしいと思います。」

【門脇委員】

「どの写真もほっとする写真ばかりで、農村の良い部分が上手く切り取られていると感じました。数多くの作品のなかでも個人的には、人の力強い表情が収められている作品が魅力的でした。」

【根本委員】

「普段の生活のなかで他の人にとっては何気なく見ている様々な風景や人物を上手く切り取って写真に残すという技術と、応募者が作品に詰め込んだ様々な気持ちや想いも考慮しながら審査させていただきました。」

【本会「お知らせ」】



審査委員会の様子や、その他の委員の方々からの感想につきましては、本会HP「お知らせ」内に掲載しております。(右記QRコードからアクセス可能)

最優秀賞

秋田の農業&農村部門



秋彩の大潟溜池

丹羽 明仁 [撮影場所] にかほ市伊勢居地

【撮影者コメント】

新雪の鳥海山を倒影する秋の大潟溜池。その自然湖のような美しさにとても感動しました。

最優秀賞

「守りたい秋田の里地里山50」部門



天空の架け橋

安保 邦夫 [撮影場所] 北秋田市阿仁

【撮影者コメント】

空に近い戸鳥内の棚田が天の川とつながっているという思いを表現したかったです。

最優秀賞

SNS
農業&農村部門



農家の朝

@n._.0704 [撮影場所] 北秋田市阿仁

優秀賞

2部門共通



予感

小野寺 泰雄
[撮影場所]
由利本荘市矢島町

【撮影者コメント】

黒雲が出て雨になるのでしょうか？牛たちが身を寄せて集まっていました。



春山を望む

相馬 功輝
[撮影場所]
にかほ市馬場

【撮影者コメント】

田んぼを耕し終えたトラクターが、遠くに見える鳥海山を眺めながら、今日も一日頑張ったなーと振り返っているような雰囲気が見えます。



水かけ神輿

瀬川 正範
[撮影場所]
美郷町六郷

【撮影者コメント】

神輿に水をかけ、子どもたちの元気な声がしました。



六郷清水で夏休み

柴田 ミツ
[撮影場所]
美郷町六郷

【撮影者コメント】

美郷は小さな川でも水はボコボコと湧き出て、夏は冷たく、冬はぬるく、仙北平野の水源です。



ゲームより真剣

長澤 昭
[撮影場所]
大仙市仙北

【撮影者コメント】

小学校の農業体験の1コマ。田植えに夢中になっている姿を伝えたいと思いました。

たくさんのご応募ありがとうございました。来年度も引き続き写真コンクールを開催いたします。皆様の素敵な作品をお待ちしております！

農地・農業用施設災害復旧事業 業務委託標準歩掛の運用について



近年、全国的に集中豪雨による災害が頻発化・激甚化し、県内でも人家や農地・農業用施設等への被害が増加しております。災害発生時には、迅速な対応が必要とされますが、これまで本県においては災害復旧業務委託について統一された歩掛りが作成されておらず、発注者は業務委託の積算に苦慮していました。そのため、県、市町村、土地改良区、土地連、県土整備コンサルタンツ協会等の関係団体で構成する秋田県農村災害支援協議会（以下協議会）では、令和3年8月に「災害契約の現状と統一された歩掛りの必要性について」のアンケート調査を実施しました。

回答として、市町村からは、「現状では定まった歩掛りが無いことから、見積りや土地連の災害単価、類似業務歩掛かりを参考としているため、事務の煩雑化に繋がっている」などの意見が多く、市町村での業務委託の対応がバラバラで整合性が図られていないことも問題として捉えることができました。設計コンサルタントからは、「建設災害と農村災害とでは業務が同様であっても委託額の差が大きい（農村災害が安価）」等の意見が多く寄せられる結果となりました。

そのため、協議会では、実情にあった統一の標準積算歩掛りが必要であると判断し、作業部会を立ち上げ、標準歩掛り作成を進めるべく、3回の検討会を開催しました。



検討会メンバー：秋田県農地整備課、市町村（6市町）、土地連、
設計コンサルタント（3社）

第1回検討会：令和3年11月18日 基本方針とスケジュールの検討

第2回検討会：令和3年12月9日 標準歩掛かり案の検討

第3回検討会：令和4年1月20日 標準歩掛りの最終決定

作成された標準歩掛りは、令和4年4月より協議会で制定する歩掛かりとして、「秋田県農地・農業用施設災害復旧事業業務委託標準積算基準」とすることとなりますので活用願います。

なお、それに伴い土地連の令和4年度「受託料基準表」からは災害に関する項目は削除することといたしますので御了承願います。

水土里ネット秋田

退職される方からひと言

今年度で退職される職員の方をご紹介します。

1. 所属・役職
2. ひと言



菊地 均

1. 管理情報部 施設整備班・専門員

2. これまでの8年間心がけたことは、できるだけこの職場の役に立ちたいと思って過ごしたことです。答えは分からず今日に至っています。通勤は毎日片道5kmを自転車で、冬は歩いて通いました。便利な車通勤では味わえない、不便だけれど毎日の天気や季節を感じることができました。時には車に傾きもしましたがこの冬には、これが最後の年の1日かと思うとなごり惜しい気持ちで雪道を歩きました。しかし、時計は楽しくても嬉しくなくても動き続けていました。土地連は農家の田畑の整備・管理などを多方面から支援する職場です。皆さんは、期待されることが多く結果も求められますが、これまでもしなやかに応じてきたと思いますし、これからもシナリ強くたくましい人たちであって欲しいと望みます。長い間お世話になりました。皆さんのご健闘をお祈りします。



来てけれ! 鹿角市

鹿角市産業部 部長
花海 義人

かづの牛



かづの牛(ぎゅう)は、和牛の中でも1%しか存在しない希少な日本短角種の牛です。

緑豊かな放牧地でたっぷりの牧草を食べて育ったその肉は「高たんぱく」「低カロリー」「鉄分・ミネラル豊富」であり、ヘルシーで低脂肪な赤身肉です。

アミノ酸もたっぷりで、噛めば噛むほど旨味が出てくる風味よいかづの牛をぜひ1度ご賞味ください。

大湯環状列石(大湯ストーンサークル)



大湯環状列石は2021年にユネスコ世界遺産に登録された縄文時代の特別史跡です。

大規模な日時計状組石をはじめとした環状列石の周囲からは、竪穴住居、堀立柱建物群、配石遺構などが発掘されています。また土器や土偶などの祭祀や生活に関わる石製品が多量に発掘されていることから、縄文時代の人々の暮らしや文化の風に触れられる遺跡と評されています。

大日堂舞楽



大日堂舞楽とは八幡平地区にある大日霊貴神社にて毎年1月2日に五穀豊穡・無病息災などの祈りを込めて奉納される舞楽で、2009年には、ユネスコ無形文化遺産に登録されています。

起源は養老2年(西暦718年)と言われ、日本最古の舞楽としていまなお伝承されています。例年多くの参拝客が訪れ、多くの人の耳目を惹きつけます。

花輪ばやし



鹿角の夏に響き渡る日本三大囃子の1つ「花輪ばやし」は毎年8月19・20日に行われる鹿角市花輪の屋台行事で、2016年にはユネスコ無形文化遺産として登録されています。

夏の暑さに負けじと奏でられる囃子の音色と、それぞれ意匠が異なる豪華絢爛な総漆塗り、金箔押が施された10町内・10台の屋台が駅前勢ぞろいする姿は圧巻のひと言。

この、鹿角の熱気に触れてみるのはいかがでしょう。

末広地区ほ場整備事業



鹿角市末広地区は平成25年に松山・土深井・大欠・石野の4集落で構成される農事組合法人末広ファームを設立し、地域農業の維持・発展と効率化を図るため、平成27年度にはほ場整備を行いました。

全国的に問題となっている高齢化による農業の衰退が進む中、末広ファームでは少しでも多くの方に農業に触れる機会をもっていただくため、ネギやキャベツの収穫イベントを春と秋に実施し、多くの世代から好評を博しています。鹿角の四季を収穫しに、ぜひお立ち寄りください。



「田沢疏水の歴史と今」

秋田県田沢疏水土地改良区

事務局長(兼)総務課長 佐藤 猛

秋田県田沢疏水土地改良区は、秋田県東部に位置し、奥羽山脈の裾、仙北市、大仙市、美郷町の2市1町にまたがる受益面積4,660haの穀倉地帯です。

昭和初期に食糧増産対策の一環として、地区内の集団開墾適地において土地利用計画が樹立され、開田整備が計画されました。農業用水確保を目的とした、田沢湖、玉川等を水源とする「田沢疏水左岸幹線用水路」及び「田沢疏水右岸幹線用水路」等の基幹水利施設の造成及び約2,500haの開田を行う国営開墾事業「田沢疏水地区」（昭和12年度～昭和37年度）が実施されました。

更に同事業に引き続き、太平洋戦争後の食糧増産対策として玉川を水源とする「第二田沢幹線用水路」等の造成及び約870haの開田を行う国営総合開拓パイロット事業「第二田沢地区」（昭和38年度～昭和45年度）が実施されました。

国営かんがい排水事業「田沢疏水地区」（昭和54年度～平成元年度）による基幹水利施設の更新を経て、現在、実施10年目となる国営かんがい排水事業「田沢二期地区」が実施されており、幹線・支線用水路の改修が順調に進んでいます。また、懸案であった抱返頭首工の改修も本年度よりスタートしました。工事は、非かんがい期間に行わなければならないことや工事場所が県立自然公園内といった制約が多いことから、東北農政局田沢二期農業水利事業所と綿密に連携を図りながら、令和6年度に事業が完工できるよう関係機関との事業調整に努めています。



国営開墾事業「田沢疏水地区」



抱返頭首工



抱返頭首工整備工事



田沢疏水左岸幹線用水路



井川町土地改良区

主任書記 小林 千子

この冬は、例年になくこの辺りも雪

が多く、集められて出来た雪の山を見るたび早く春が来ないかと思う日々ですが、少し落ち着きを見せたかと思つたコロナウイルスも、年明けからオミクロン株の影響で県内でも感染者が再び急増し、自宅で過ごす時間がまた増えてしまいました。そんな中、北京オリンピックが開催され、日本選手団の活躍に感動と興奮の連続で、コロナ禍で沈んだ心も明るい気持ちにさせてもらい、スポーツはやつぱり良いものだなと実感しています。



アスリートの人達を見て

いると、なぜあんなに走ったり動いたり出来るのかとよく思うのですが、高校までバスケット部に入っていた私も、当時の事を思い返せば、昔は普通に出来た事なんだよな!?!と不思議な感覚になります。今では、階段を上るだけでも息切れしてしまうほどのに・・・

年々体力の衰えを恐ろしく感じながらも、私が唯一続けてやっているスポーツがスノーボードです。寒いのは嫌いですがまふまふの雪は大好きで、冬の楽しみとして毎年ゆる〜く続けています。ここ数年はコロナ禍で自粛していますが、運動不足解消のためにも、何も気にせず、気軽に滑りに行く日常が戻ってきてくれたらいいな〜と思いつつ、この春に向かいコロナが収束していつてくれるのを願っています。



連 合 会 日 誌

2月10日	全国水土里ネット女性の会総会・研修会	本会第2会議室
2月22日	第22回写真コンクール審査委員会	本会第1会議室
2月25日	都道府県土地改良事業団体連合会等事務責任者会議	オンライン開催
3月3日	全土連理事会	オンライン開催
3月11日	第20回秋田県土地改良区統合整備検討委員会	秋田市(Web会議)
3月18日	第64回通常総会	秋田市文化会館
3月24日	全国水土里ネット第64回通常総会(表彰式は中止)	東京都
..... 今後の行事予定		
3月31日	退職者の送別式	本会第1会議室
4月1日	人事異動通知書交付	本会会長室

ちょっと知っておきたい

キーワード

IoTとは

IoTとはInternet of Things(インターネット オブ シングス)の略称で「あらゆる物のインターネット化」という意味になります。コンピューターや通信機器に限らず、多種多様な物(エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、自動車、医療機器など)を無線通信でインターネットに接続しデータのやり取りや制御を可能にした技術です。

AIとは

AIとはArtificial Intelligence(アーティフィシャル・インテリジェンス)の略称で「Artificial(アーティフィシャル)」とは「人工的な」、「Intelligence(インテリジェンス)」とは「知性」という意味です。日本語では、「人工知能」とも訳されており「人間のような知能を持つコンピューター」とされ「自ら学習する」ことが大きな特徴です。AIを支える技術として重要なのが「機械学習」です。「機械学習」とは、大量のデータを何度も繰り返し学習し、データパターン(色、形、大きさなどの特徴)を見つけ出す技術です。

これまでの農業は自然環境に大きく左右され、その多くは人の経験・知識・勘が必要とされてきましたが、AIの登場により農業は大きく変わりつつあります。最近よく耳にする「スマート農業」も「ロボット、AI、IoT等の先端技術を活用する農業」のことを言います。現在では、AIを活用した画像診断による病虫害被害の最小化や野菜の収穫適期を認識し、高速・高精度で収穫する技術などが研究開発され、今後ますます農業分野での活用が期待されています。



「藤原泰衡 終焉の地 錦神社」

水土里レポーター：大館市二井田真中土地改良区
庶務担当主事 齋藤 祥太

大館市二井田には、奥州藤原氏四代泰衡を祀る錦神社があります。

1189年9月3日、源頼朝に攻められ蝦夷地へ逃亡する途中、今の二井田に立ち寄り家臣河田次郎を頼ったところ、裏切られて命を落としました。

遺体は村人によって埋葬され、その場所が錦神社となり毎年9月3日に祭りが行われています。



リレー vol.28 感想文



毎号、仕事の息抜きに拝見させて頂いております。

県内で事業や行事、会員のおすすめのスポットなど多岐にわたる情報を入手する事が出来る、貴重な情報誌だと思います。

今後は、自分も情報提供やアイデアを出し、より良い広報誌を作り上げるため、協力していきたいと思っております

管理情報部 技術・調整班

大山 雄平

編集後記

段々と暖かさが増し、各地で桜の開花予想がされるなど春の訪れを感じられるようになりました。気がつけば今年度もあと少しで終わろうとしています。

春になると去年出来なかった何か新しいことに挑戦してみたいという気持ちになりますが、私は明日からやろう！と思うばかりでなかなか思うように始めることが出来ません。今年こそは自分をレベルアップさせる為、没頭できる何かを見つけて挑戦したいと思います。まずは、その第1弾として今月号の会報誌から県内ほ場整備事業が実施された地区についてご紹介しております。来年度からはまた違った「秋田の土地改良」になるよう、様々な場所に自分の足で取材に行き、現場の「生の声」をお届け出来るよう努力して参ります。

皆様におかれましては、新しい年度を迎えるにあたりお忙しい毎日かと思っておりますが、お身体に気をつけてお過ごしください。来年度も水土里ネット秋田をどうぞよろしくお願いいたします。

(政策・広報班 寺澤)

